

歯科衛生士概論(含医療倫理)

講 師	井 手 祥 二 森 結 花	実施時期 単 位 数	第 1 学年前・後期 2 単位 (30 時間)	実務経験	○
一般目標 (GIO)	歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を修得する態度および論理的思考法の基礎を修得する。				
授 業 概 要	健康づくりをサポートする歯科衛生業務を有効に展開するために必要な態度・取り組みと専門知識の技能の全体像を学ぶ。 医療従事者として医療倫理、生命倫理、またインフォームドコンセントやQOLについて理解する。				
学 習 方 法	講義・DVD視聴・グループワーク				
成績評価の方法	定期試験の結果を中心とし、課題への取り組みや授業への参加状況等を考慮し、総合的に評価する。 (定期試験80%、課題・出席状況20%)				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会 (監) 歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」 医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会 (監) 歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科衛生士教育の入門科目である。適宜グループワークを行い、専門職の自覚をもって医療従事者としてどうあるべきかを考えてもらう。自主的な学習態度・学習過程を重視する。				
参 考 書	授業中に適宜指示する。				
教員の職務経験 (科目との関連性)	・歯科医師としての臨床経験を通し、医療倫理に関する基礎知識を講義する。 ・歯科衛生士としての臨床経験を通し、歯科衛生業務に関する基礎知識を講義する。				

授業計画 [1～12：森 結花、 13～15：井手祥二]

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	歯科衛生学とは	①歯科衛生学の定義を述べることができる。 ②歯科衛生と健康のかかわりを説明できる。 ③歯科衛生活動の対象を列挙し、領域を説明できる。
2	歯科衛生の歴史	①日本の歯科衛生の誕生について概要を説明できる。 ②歯科衛生士の誕生について概要を説明できる。 ③Dental hygienistの語源について説明できる。
3	歯科衛生活動のための理論	①予防の概念を理解できる。 ③保健行動の理論を説明できる。 ②ICF、EBM、批判的思考を説明できる。 ④ヒューマンニーズ理論を説明できる。
4.5	歯科衛生過程	①歯科衛生業務において、歯科衛生過程を活用する意義を理解する。 ②歯科衛生過程を説明できる。 ③歯科衛生過程のプロセス、構成要素を列挙、説明できる。 ④POS、SOAPを概説できる。
6.7	歯科衛生士法と歯科衛生業務	①歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務について概説できる。 ②歯科衛生士の業務独占、名称独占、法的義務について説明できる。 ③歯科衛生士の専門性について概説できる。 ④歯科衛生業務に関連する法規を列挙できる。 ⑤安全管理の必要性を説明できる。 ⑥安全管理についての法的責任について説明できる。
8	まとめ①	歯科衛生士と歯科衛生士法について説明できる。
9.10	歯科衛生士と医療倫理	①倫理の必要性について説明できる。 ④インフォームド・コンセント、インフォームド・ ②医の倫理について概説できる。 チョイスについて説明できる。 ③歯科衛生と倫理について説明できる。 ⑤セカンドオピニオンについて説明できる。
11	歯科衛生士の活動と組織 海外における歯科衛生士	①歯科衛生士法の活動の領域と就業の推移を説明できる。 ②健康増進に関連する戦略の概要を説明できる。 ③各保険制度の仕組みを概説できる。 ④歯科衛生活動の種類と業務の概略を説明できる。 ⑤歯科衛生士の社会組織活動の領域と組織活動を説明できる。 ⑥海外における歯科衛生士教育内容と歯科衛生業務内容を概説できる。
12	まとめ②	歯科衛生士が歯科衛生業務を専門職として実施するための根拠を説明できる。
13	医療従事者としての心構え 医療倫理に関する規範	人命の尊重と患者への献身という基本的義務について説明できる。 医療倫理の歴史経過と規範を概説できる。
14	バイオエシックス(生命倫理)について インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントにおける患者と保健医療者双方の権利と義務を説明できる。
15	研究と医療倫理 QOL(quality of life: 生活の質)	臨床、研究、情報に関する倫理的問題を説明できる。 歯科衛生士としてのQOLとの関わり方と向上について説明できる。